

群馬 NPO 協議会総会議事録
2017年6月9日(金) 17:30～

1. 開会 司会：栗原
2. 群馬 NPO 協議会会長挨拶 太田 10月より新任 ご意見を聞かせてほしい
3. 来賓あいさつ 三田功元県民生活課長

NPO・ボランティア推進課長 新しい公共担当

「3月で退職。NPO 法人は制約がないが、いまほど世の中に求められている時代はない、社会に求められている。地域に根付いている。小回りが利く。力を出し切っていない。今後 NPO が育つためには、単独で活躍するだけではなく、行政、企業と協働して社会のために活躍してもらいたい。NPO で就労し生活できるように。群馬県の NPO の底上げをしていかななくてはならない。それができるのは群馬 NPO 協議会である。中心となる団体が強ければその業界は力をもつ。行政の仕事もとってこられる。協議会が皆さんの協力のもとに力をつけ、NPO の底上げをはかってもらいたい。役員は本気で取り組んでいるので、会員の協力が必要。群馬県の NPO が活躍できることを願っている。」

司会 今後とも三田さんには NPO にご支援いただきたい。

菊池係長

※加藤課長議会行事とかさなり、代理出席。3年前 NPO 多文化共生推進課、NPO ボランティア推進課に所属。祝辞代読。

【祝辞：加藤課長】

「群馬 NPO 協議会の総会が盛大に開催されることをお喜び申し上げます。NPO サロン群馬の運営に感謝。それぞれの活動に熱心に取り組まれていることに敬意。県内 NPO は 860 法人に増加。市町村域センター 14 か所設置。支援と団体のつなぎ役。みんなで支えあう社会づくりを目指し、引き続き支援していきたい。行政、企業と連携し活躍できるよう協力を願う。協議会のますますの発展を祈念。」

4. 議長選出
太田会長 拍手で承認

5. 議事

一括上程方式で 1 号議案・2 号議案。

- 1) 1 号議案 H28 年度事業報告 掛川副会長より報告

⇒資料にもとづき説明

1. 群馬 NPO 協議会関連 会員数 255
9/30 会長交代を報告 役員交代 会員より多くの意見をいただいた。
2. 会員対象の助成金事業
5 団体に活動助成。41 団体を支援。民から民への支援。本年度は休止。
3. SAVE JAPAN プロジェクト
鳴神山の自然を守る会に委託
4. 福祉課題解決のための新たなしくみ、つながりづくり事業
共同募金特別配分
会計基準導入セミナー 導入調査 個別支援 5 団体

5. NPO・ボランティアサロンぐんまの運営

8項目の事業をしている。

2) 2号議案 H28年度決算報告 事務局永井

(資料参考)

※平成28年度会計監査報告 太田 (監査の熊倉さん田中さん欠席のため代読)

質問 なし

議案採決 1号議案 2号議案 承認可決

3) 3号議案 平成29年度事業計画 掛川副会長

事業計画①～⑦ (資料参考) (23ページにスケジュール・予算)

① ②は新たなところみ

⇒各委員会・役員 10名+公募委員5名 (計 15名)

- ・事業検討委員会の設立/委員の公募/委員会にて事業案の検討
- ・組織検討委員会

会則の検討/連絡ツールの確立/30年度の役員改選に向けての検討等

SAVE JAPAN プロジェクト

サロン運営

総会

役員会

<会長補足>

①育成助成金一時休止 限られた団体への支援となる点。資金援助自体が支援として適切か? NPOをとりまく環境変化・時代の変化に合わせて検討が必要。

②委員会の公募 7月発足をめざす。本日より公募。会員限定。

<条件>・現時点では1団体どちらか1つに参加・メール連絡が可能の人

※記載されている検討事案もあくまで一例であり役員会で詳細は決定していく。

③情報発信 郵送はコスト高。メールで多く発信していきたい。登録を願う。

<質問>

●前橋おやこ劇場・峯岸(会員) (災害で助成金をもらった経験から)

助成金は小さな活動には大きな意味をもつ。

助成金を廃止しながら、委員会に予算をつけている根拠は?

●太田会長の回答 助成金の活用に感謝。

助成金のその後の使われ方等、これまでは追跡していない。それでは無責任。

助成を出すなら再構築が必要。

●スピリット 藤田（役員）

今期助成金は休止であり、中止するわけではない。

1年保留し、助成金効果、方法を実行委員会で検討していく

継続・復活はある。休止し再検討もあり一方的に廃止ではないので理解してほしい。10年間45団体に出している。好評なので継続してきた。丁寧な見直しをしていきたい。

●太田会長 予算（30万円）の用途は委員会で慎重に検討する。予算表記は30万円を予備費として浮かさず、会員のための活動につぎ込むという協議会の意思のあらわれ。

●藤田 事業執行にあたり予算ゼロではなにもできない。事業するのであれば予算が必要。前の事業の数字をつかって予算をだしている。

●ミュージックフォーチルドレン・朴（会員）助成は会員のメリットについての方針のシンボルの一つ。旧会長時代からの方針の変更があったのか。方針の転換があるのであれば、説明をしてもらいたい。助成金に対して報告書提出表記はなかった。「報告がない。」と団体を責めるのはおかしい。

●太田会長 言葉足らずで申し訳ない。助成先に責任があるとは思っていないし言っていない。追跡等しなかったのは我々側の責任。協議会の方向性は「会員をサポートする活動を」というものであり、一切変わっていないと思う。助成金については再度しっかり検討するための休止。個人的な意見であるが、お金を渡すだけで団体が成長するとはかぎらない。限られた数の団体の支援に使われることにも疑問あり。資金を有効利用し、より幅広い団体支援ができるのではないかとこの1年で探りたい。

●朴 10月からの新会長、この半年間何をしていたのか。変更の事実をつくらなければ意味がない。次年度の総会でなにもなかったでは困る。副会長の補充を。

●桐生市民活動推進センター 角田（会員） 臨時総会から一連でみている。これまでにない動きがある。素晴らしいと思う。期待している。協力したいと思っている。

●太田 この一年で何をしていくのかは会長が1人ですることではない。役員・会員の方々と力を合わせ共に協議会を作っていきたい。今日がそのスタート。皆さんの協力をお願いします。

議案採決 満場一致 拍手で承認可決された。

4) 4号議案 平成29年度予算案 掛川副会長

・大きく変わっている点

経常収益 受託事業収益 669万円 県予算の削減 80万円減

経常収益合計 80万円減

・費用も少なくしている

人件費 法廷福利費 サロン社会保険加入

管理費 事務局経費 給与 47万円減少 管理費計で昨年実績の半減

・収支トントンとした

今やらないと次に進めない さらに成功させ、助成金を復活するための予算。

質問 なし

議案採決 満場一致 議案通り承認可決された。

その他

●藤田 事業検討委員会の名称に関して。検討し運営までする委員会なので名称に「検討」とつけるのはいかなるものか。より良い表現がないか図ってもらいたい 会長にゆだねる。

6. 議長解任 会長 皆様のご協力が無事議案を通すことができた。協力に感謝。

7. 閉会

8. 事務局からの連絡

県庁入口案内／机椅子の整頓協力依頼